



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2020年
No.4
事例1

疑義照会

相互作用



事例

【事例の内容】

同じ医療機関の口腔外科からオラビ錠口腔用50mgが、循環器内科からワーファリン錠1mg 1日1.5mgを含む10種類以上の薬剤が患者に処方された。当薬局で2科の処方箋を受け付け、処方監査から薬剤調製、鑑査を行って薬剤を交付した。後日、製薬企業の医療機関担当者より報告を受け、交付から数日後に重篤な出血により患者が入院したことがわかった。

【背景・要因】

オラビ錠口腔用50mgとワーファリン錠1mgが併用禁忌であることに気付かず、疑義照会を行わなかった。電子薬歴にて薬剤の禁忌情報を確認することは可能であったが、調剤に関与した薬剤師3名はその表示を見落とした。また、新薬であるオラビ錠口腔用50mgに関する知識が不足していた。

【薬局が考えた改善策】

電子薬歴システムに表示される禁忌、相互作用などの情報は、処方監査、鑑査、交付時に必ず確認することを薬局内で徹底する。さらに、新薬を初めて調剤する時には、必ず添付文書の内容を確認する。



その他の情報

オラビ錠口腔用50mgの添付文書（一部抜粋）

【組成・性状】

有効成分・含量：1錠中 日局 ミコナゾール50mg

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

2. ワルファリンカリウム、ピモジド、キニジン、トリアゾラム、シンバスタチン、アゼルニジピン、ニソルジピン、プロナンセリン、エルゴタミン酒石酸塩、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩、リパーロキサパン、アスナプレビル、ロミタピドメシル酸塩を投与中の患者

【使用上の注意】

3. 相互作用
 - (1) 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ワルファリンカリウム ワーファリン	ワルファリンの作用が増強し、重篤な出血あるいは著しいINR上昇があらわれることがある。また、併用中止後も、ワルファリンの作用が遷延し重篤な出血を来したとの報告もある。患者がワルファリンの治療を必要とする場合は、ワルファリンの治療を優先し、本剤を投与しないこと。	ミコナゾールがワルファリンの代謝酵素であるCYP2C9を阻害することによって考えられる。



事例のポイント

- 2016年10月にワルファリンカリウムとミコナゾール（ゲル剤・注射剤）の添付文書「使用上の注意」が改訂され、併用禁忌となった。
- 本事業部が運営している医療事故情報収集等事業には、ワーファリンが処方されている患者に対し別の医療機関からフロリドゲル経口用（成分：ミコナゾール）が処方され、保険薬局が疑義照会を行わないまま調剤・交付した結果、患者がPT-INR過延長のため入院加療を要した事例が報告されている。
- 口腔用錠剤（付着錠）であるオラビ錠口腔用50mgは、ゲル剤・注射剤と同様に併用薬に注意する必要がある。
- 薬局で初めて調剤する薬剤については、成分、効能・効果、用法・用量などの基本情報を十分理解したうえで調剤を行うことが重要である。
- 電子薬歴システムを利用する場合は、表示される禁忌などの情報を確認することを怠らない。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。